

赤んぼ少女

2008(平成20)年7月16日鑑賞(GAGA 試写室)

★★



監督=山口雄大/原作=椋岡かずお『赤んぼ少女』(小学館刊)/出演=水沢奈子/野口五郎/浅野温子/斎藤工/板尾創路/堀部圭亮/生田悦子(日活配給/2007年日本映画/104分)

……貞子(『リング』)、伽椰子(『呪怨』)に続く超絶ホラーヒロインが、「赤んぼ少女」ことタマミ。まずは、その造形に注目！ 生き別れた妹葉子は孤児院で美しく成長し、今15歳。そんな妹が屋敷にやって来たことに嫉妬心を燃やしたタマミの暴走は……？ ホラー映画なのに、途中失笑が起きていたが、それはちょっとまずいのでは……？

タマミのモンスター性で勝負だが……

貞子(『リング』)、伽椰子(『呪怨』)に続く2008年の超絶ホラーヒロインがタマミとのこと。すると、「赤んぼモンスター」タマミの造形をいかにするかがまずこの映画の勝負どころ。

しかし、序盤は老婆の毒牙のようなタマミの醜い指だけが目立ったが、後半はその醜い姿の全貌を見せ、恐ろしさが全開！ しかし、タマミのうめき具合や行動パターンそして攻撃のパターンが見えはじめると、試写室内には失笑も……。これでは、ちょっと……？

美少女ヒロイン葉子は？

ホラー映画嫌いの私が『赤んぼ少女』を観たのは、チラシに載っている15歳のヒロイン葉子を演ずる新人女優水沢奈子の恐怖にゆがむ顔に色気があり(?)、魅力的に見えたから。映画前半、お嬢サマ風に映る清楚な表情はそれほどの美少女でもなかった(?)が、後半赤んぼモンスター、タマミから執拗な攻撃を受け、髪を振り乱しながら逃げ回るシーンでは、それなりの魅力も……？

プレスシートによると、彼女は『こわい童謡』（07年）と『ぼくたちと駐在さんの700日戦争』（08年）にも出演していたらしいが、私には全然記憶なし。そんな彼女がヒロイン葉子役に抜擢されたのは、山口雄大監督らが実施したオーディションで、①まずイジメられるキャラなので、その姿に悲壮感だけが漂ってしまうのは辛い。芯の強さが画面から伝わる子がいい、②それでいてイジメられたときにその姿が色っぽく見えたら、ある興奮を観客に味わってもらうこともできる、③第一印象は現代の女の子だけど、昭和35年の少女も似合うだろうと思わせた、という3点で全員が一致したため。

しかし、この映画のヒロインをつとめただけでは、今後の飛躍を保証されておらず、その将来性はまだまだ未知数……。

タマミのモンスター性はピカイチ……？

私は全然知らなかったが、『赤んぼ少女』はホラー漫画をたくさん世に送り出している楳図かずおの原作。そしてプレスシートによれば、『ヘビ女』よりも、『黒いねこ面』の化け猫よりも、『赤んぼ少女』のタマミの方がモンスター性が強く怖いらしい。

たしかにこの映画でも、葉子を南条家の屋敷に案内した孤児院の職員吉村誠也（堀部圭亮）はもちろん、南条家の使用人の紀伊スエ（生田悦子）、さらには葉子とタマミの父親である敬三（野口五郎）さえ、タマミの手によって（？）無惨な最期を遂げるのだから、タマミのモンスター性はすごい。しかし、次々と殺人を重ねるモンスター性の必然性は……？

タマミのモンスター性が目覚めた原因は？

タマミのモンスター性が目覚めたのは、葉子への嫉妬心から。すなわち、父親の敬三が孤児院に入っていた葉子を戦争中に生き別れた娘だと確信し、屋敷に引き取るようになったことが原因だ。これによって、それまでずっと母親夕子（浅野温子）の盲目的な愛情の下で世間との接触を一切断って生きていたタマミの嫉妬心に突如火がついたわけだ。

しかし、私に言わせれば、それならタマミは葉子を殺せばいいだけで、誠也やスエが殺されたのはまるでとぼっちり。しかも、誠也を探しに来た弟の高也（斎藤工）まで手ひどいケガをさせられることになるからかわいそう。「わたしにも、いつか、王

子様が……」と願っていたタマミにとって、美しい葉子が屋敷にやってきたのが気に入らないのは当然だとしても、それならタマミと葉子だけのバトルでケリをつければいいんじゃないの……？ そうすれば、無用な被害が広がらなくてすんだのに……。

ラストシーンは美しいが……

前述のとおり、タマミと葉子の父親である敬三がタマミによって無惨な最期を遂げるのは少し納得できないが、この映画を観ていると、母親の愛は盲目的で、永遠かつ絶対だということがよくわかる。すなわち、夕子の頭の中にはタマミのことしかないから、美しく成長した妹の葉子を見ても全然反応を示さないわけだ。そんなミステリータッチの母親夕子役を浅野温子が好演。葉子との激しいバトルによって醜い顔にさらに傷を負ったタマミをやさしく抱きしめ、「さあ、お家に帰りましょうね」と言いながら、業火に焼かれている屋敷の中に入って行く姿は、ある意味感動的。

そんな美しいラストシーンには納得だが、全体としてこの映画は、ハッキリ言って時間のムダ……？

2008(平成20)年7月17日記

ミニコラム

腹が立つ！ その2——これでも過失？

08年10月18日に大阪市淀川区で起きたのが中3の女子生徒による無免許ひき逃げ事件。男性をはねたうえ約180mも引きずって重症を負わせたこの事件は、懲役7年以下の自動車運転過失致傷（刑法211条2項）と、懲役10年以下のひき逃げ（道路交通法違反）で捜査中。

そんな中、10月24日付日経新聞夕刊は、この女子生徒はゲームセンターでハンドルやアクセルを操作して擬似的に運転を体験できるゲームで遊ぶうち

に、「ゲームが上達して自信がついた。本物の車も運転してみたい」と考えるようになり、父親の軽自動車を運転した、と報じたからビックリ！ 14歳という年を考えれば考え方が幼く直線的なことは仕方ないかもしれないが、これでも自動車運転過失致傷？ 懲役20年以下の危険運転致死傷罪（刑法208条の2）の適用はやっぱり難しいの？ ああ、腹が立つ！

2008（平成20）年10月25日記